

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミノ
事業所名	グループホーム 紫原
訪問調査日	平成21年9月27日
評価確定日	平成21年10月21日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103904
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム 紫原
所在地	鹿児島市紫原四丁目34番31号 (電 話) 099-250-2643
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年9月27日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年10月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	11人, 非常勤 8人, 常勤換算 14.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り陸屋根		
	2階建ての	1階～	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	56 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	野井倉内科クリニック 田中整形外科クリニック 磯橋歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、鹿児島市南部に位置する高台の住宅地に建てられており、近くには公園や学校、医療機関などがある。利用者は、職員とともに毎日公園や周辺の散歩に出かけ、近所の方々と日常的に交流している。また、町内会にも加入しており、地域の文化祭や夏祭り、幼稚園や学校の行事などに招待されたり、ボランティアや体験学習を受け入れるなど、地域に開かれたホームを目指して取り組んでいる。職員育成に関しては、テーマ毎に担当を決めた内部研修を実施しており、外部の勉強会と併せて、さらなる資質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、管理者がとりまとめを行っている。前回の評価結果を受けてミーティングで話し合い、評価の意義を理解しつつ具体的な改善に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者およびご家族をはじめ、地域の民生委員やPTA会長、県議会議員、人権擁護委員などの参加があり、2ヶ月毎に開催されている。ホームの取り組みや課題について報告が行われ、会議で出された質問や意見については、その後検討を行い次回の会議で報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催やご家族向けのアンケート調査が実施されており、意見等が表せる機会を設けている。運営推進会議で出された意見等に関しては、議事録を作成してご家族に送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の夏祭りや文化祭にも参加している。幼稚園児の訪問や小中学生の体験学習をはじめ、多様なボランティアを受け入れている。また、近隣の住民に対して避難訓練の参加を呼びかけたり、救急蘇生教室開催のチラシを配布するなどしている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々とのつながりを大切にして交流しながら、笑顔のあふれる暮らしを続けられるように支援していくという趣旨の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や受付、ホールに掲示しており、毎朝の申し送りの際、職員全員で唱和している。職員は、特に利用者の笑顔を大切にし、居場所の確保などをできるように意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の夏祭りや文化祭にも参加している。幼稚園児の訪問や小中学生の体験学習をはじめ、多様なボランティアを受け入れている。また、近隣の住民に対して避難訓練の参加を呼びかけたり、救急蘇生教室開催のチラシを配布するなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、管理者がとりまとめを行っている。前回の評価結果を受けてミーティングで話し合い、評価の意義を理解しつつ具体的な改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者およびご家族をはじめ、地域の民生委員やPTA会長、県議会議員、人権擁護委員などの参加があり、2ヶ月毎に開催されている。ホームの取り組みや課題について報告が行われ、会議で出された質問や意見については、その後検討を行い次回の会議で報告している。		市や地域包括支援センターに対して、当初、会議出席の依頼は行ったが今のところ参加には繋がっていない。今後も引き続き出席依頼を行い、運営推進会議において行政や地域包括支援センターからの助言を受けることで、さらなるサービスの質向上に活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へ年間行事計画表やホーム便りを届けるとともに、サービス内容についての相談を行っている。行事の際に、社会福祉協議会の職員や地域福祉支援員、県議会議員を招待して現状を理解してもらったり、助言を得る機会としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族便りにてホームや各利用者の近況報告、職員の異動や行事のお知らせ、金銭出納帳の写しを送付している。出納帳の原本は、年度末にご家族に渡している。健康状態等に変化が見られた場合は、随時、電話にて連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催やご家族向けのアンケート調査が実施されており、意見等が表せる機会を設けている。運営推進会議で出された意見等に関しては、議事録を作成してご家族に送付している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット毎に職員を極力固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入職した際には、馴染みのスタッフが利用者との間に入り、関係づくりが円滑に行えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、年間スケジュールとテーマ毎の担当チームが決められており、職員の段階に応じて計画的に育成する仕組みとなっている。外部研修についても、案内等があった際には事務所に掲示して、希望する職員が積極的に参加できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同業者の勉強会に参加しているほか、管理者同士が情報交換を行う機会を持っている。行事開催の折には、グループホーム同士で声を掛け合い、利用者や職員も交流する機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が出向いて利用希望者と面談したり、見学に来てもらうように促したりしている。入居後も、利用者によってはご家族の面会頻度を多くしてもらったり、レクリエーションの参加やホーム内での役割を持ってもらうことで、少しでも早く馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干やらっきょう漬け、団子やケーキづくりなどを利用者と一緒にしながら、調理方法や飾り方を教えてもらっている。また、介護を行いながら、職員自身が自分の考え方や知識の向上の必要性に気づく機会を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人やご家族から希望や意向の確認を行っているが、入居後も日々の行動や表情から思いを汲み取りながら、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の面会時に、随時現況報告を行い、要望等の確認も併せてケアの方向性などについて話し合っている。また、かかりつけ医や訪問看護師からも意見を聴取し、利用者が自分らしく生活できるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られた場合や、本人やご家族から要望があった際には、随時見直しを行っている。また、定期的な見直しを行う際も、今後、考えられる状態などを予測しながら計画作成を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が遠方から来られた際には、宿泊できるように寝具などを準備している。また、医療機関の受診同行やリハビリテーションへの送迎、訪問診療や往診受入れ、マッサージの依頼などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から訪問診療や往診が行われている。協力医療機関以外の受診に関しても、状況によっては同行するなどして支援している。また、歯科医院からも定期的な訪問を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制整備に向けて、家族会などで本人やご家族の意向や意見を聞きながら、対応できるように準備を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助の際など、利用者の尊厳を損ねるような言葉かけや対応にならないように、職員同士で留意しながら取り組んでいる。カルテなどの個人記録類は、職員以外からは見えにくいように保管している。また、個人情報保護に関する研修等がある際には積極的に参加して、日常のケアに活かせるように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な週間および一日のスケジュールはあるが、利用者のペースや気持ち、体調などを大切にして、食事時間や入浴時間などは希望に添えるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力や経験に応じた役割を持ってもらい、料理の下ごしらえや仕上げ、後片付けなどを一緒に行っている。年に数回の外食も行われ、食事が楽しみなものとなるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの気持ちや習慣、希望する入浴時間や順番、健康状態等に配慮しながら入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔ながらの料理について、準備から仕上げまで教えてもらうなど、利用者の経験や知恵を発揮していただいている。また、一人ひとりの生活歴を把握して、その方に合った楽しみごとを計画するなどして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行が困難な利用者も車椅子や車を利用して、近くの公園への散歩やドライブ、買い物などに出かけている。時には、弁当や鍋を持参したり、外食にも出かけるなど、できるだけ戸外に出る機会を多く持つように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることについての弊害は理解しており、日中は施錠していない。居室にも鍵はつけておらず、外出されそうな方にはさりげなく寄り添い、一緒にホーム周辺を散歩するなどしながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いのもとで避難訓練を行っている。その際、近隣の方々には訓練のお知らせを配布している。また、地震その他の災害に備えて、飲料水などを備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況等に応じて必要な水分量が確保されるように、目安を定めて支援している。注意を要する状態の利用者の場合は、詳細な摂取量が記録されている。栄養バランスについては、協力医療機関の栄養士に依頼し、栄養総摂取量を計算するなどして助言をもらっている。食事量については、毎日摂取量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく大きな窓のあるホールには、お雛様や鯉のぼり、七夕など、季節を感じさせる飾り付けが行われている。不快な音や光も無く、利用者は穏やかな時間を過ごすことができる。廊下は広くゆったりとした造りとなっており、車椅子での移動も余裕をもって行える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や仏壇、テレビや時計など、馴染みのある使い慣れたものを持ち込んでいただき、安心して暮らすことができるように配慮している。また、利用者の心身状態や趣味などを考慮しながら、居心地のよい空間になるように支援している。		